

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2392500100
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	春日井ケアハートガーデン グループホーム 細木の杜
訪問調査日	平成20年5月23日
評価確定日	平成20年6月10日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月11日

【評価実施概要】

事業所番号	2392500100
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	春日井ケアハートガーデン グループホーム 細木の杜
所在地	春日井市細木町一丁目37番地 (電話) 0568-35-5117

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年5月23日	評価確定日	平成20年6月10日

【情報提供票より】(平成20年4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤	11人, 非常勤 4人, 常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	83,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有/ 無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	330 円
	夕食	480 円	おやつ	110 円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(平成20年4月25日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	73歳	最高	93歳
協力医療機関名	春日井市民病院・名古屋徳洲会総合病院・愛知クリニック・河原歯科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは準工業地域に立地し、目の前には緑あふれる細木公園がある。母体法人三菱電機ライフサービスの愛知県内3つ目のホームとして昨年10月に開所し、現在1ユニットである。公園への散歩時の挨拶や地域行事に参加することで地域との良好な関係が構築されつつある。自立に向けた支援の下、穏やかに安心して生活できるホームを目指しており、職員は常に思いやりの気持ちを持って介護にあたっている。家族アンケートからも家庭的で温かい雰囲気と風通しのよい人間関係が保たれていることが伺える。管理者は「まだまだ発展途上のホームです」と話されたが、職員の意欲的で前向きな姿勢、さらに研修制度など法人組織のバックアップや先行ホームのノウハウを生かして早期の2ユニットめの開設が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価のため前回の課題はなし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は期間を設けて職員全員が現状を背伸びせず、客観的かつ冷静に日常業務を見直す機会として取り組んだ。管理者、職員ともに新たな気づきや発見があり有意義と感じた。さらに結果をまとめて再度職員に提示し、サービスの向上に向けコミュニケーションを図っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	第1回運営推進会議は、3月に春日井市介護保険課、地域包括支援センター主任介護支援専門員、民生委員、地域の薬局薬局長、家族の参加を得て開催した。会議の意義、目的、法人の企業理念、ホームの運営理念、状況報告をした。家族より町内会への対応方法、地域交流を図る上でのポイントなど様々な提案やアドバイスをいただき、地域に馴染んだホームづくりに向け協力を得られることを認識できた。第2回は町内会長にも声かけして夏頃を予定している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情、相談窓口である管理者、ユニットリーダーは家族が気兼ねなく意見、不満、苦情を言えるような良好な関係作りに努めている。また、契約時には重要事項説明書により行政窓口の説明をしている。都度の報告で今までに苦情はないが、発生の折にはマニュアルに基づき運営者、ホーム管理者内で審議の上迅速な対応、報告書の作成、職員への周知で再発防止に努める体制がある。家族会はないが、今後行事の際にあわせて交流会を開催することを検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、管理者は持ち回りの役員も今後引き受ける予定をしている。町内会組長や民生委員より地域の情報を得て細木公園内クリーン作戦、町内秋祭り、中学校資源ゴミ回収などの活動に参加し、ホームが地域に浸透しつつある。警察へも挨拶に出かけ、緊急時に役立つ入居者のリスト作りのアドバイスを受けた。地域包括支援センターとの連携で介護予防教室の開催を計画中で、町内回覧板を利用して地域の人々への呼びかけも検討している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者、家族、職員、地域住民全ての人々の笑顔の絶えない明るいホームにとの思いから、「ずっと笑顔に包まれて心に届くぬくもりを」を理念としている。今年に入り職員とも話し合い「地域住民に開かれたホームを目指します」をサブタイトルとして追加し、地域密着型サービスとしての役割を反映したものとなっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社前に理念を説明し、カンファレンス時など現場でも繰り返し確認し意識づけを図っている。職員が笑顔で接することで入居者が生活の中で「笑顔」が自然と出るような生活支援、介護を行なっている。対応方法の判断に話し合いが必要な時は理念を再度確認し、理念に沿った考え方で対応している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、管理者は持ち回りの役員も今後引き受ける予定をしている。町内会組長や民生委員より地域の情報を得て細木公園内クリーン作戦、町内秋祭り、中学校資源ゴミ回収などの活動に参加し、ホームが地域に浸透しつつある。警察へも挨拶に出かけ、緊急時に役立つ入居者のリスト作りのアドバイスを受けた。地域包括支援センターとの連携で介護予防教室の開催を計画中で、町内回覧板を利用して地域の人々への呼びかけも検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価の受審にあたり、職員に意義やねらい、活用方法について説明した。自己評価は期間を設けて職員全員が現状を背伸びせず、客観的かつ冷静に日常業務を見直す機会として取り組んだ。職員、管理者ともに新たな気づきや発見があり有意義と感じた。さらに結果をまとめて再度職員へ開示し、サービスの向上に向けコミュニケーションを図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>第1回運営推進会議は、3月に春日井市介護保険課、地域包括支援センター主任介護支援専門員、民生委員、地域の薬局薬局長、家族の参加を得て開催した。会議の意義、目的、法人の企業理念、ホームの運営理念、状況報告をした。家族より町内会への対応方法、地域交流を図る上でのポイントなど様々な提案やアドバイスをいただき、地域に馴染んだホームづくりに向け協力を得られることを認識できた。第2回は町内会長にも声かけして夏頃を予定している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法人名古屋支店の担当者が市への報告、連絡、相談を書類提出時などに行なっている。入居者の受け入れに際して、家族の協力のもと名古屋市と春日井市の行政担当者と繰り返し話し合いを行い、課題解決へ向け協働し、信頼関係を築くことができた。市主催のセミナーに参加したり、各種セミナーの参加を奨励している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりや健康状態、改善されたことなどは来訪時に随時報告している。何か変化があった時はその都度連絡している。月に1度発行、郵送する「たより」に職員の異動や紹介なども掲載して定期的な連絡を取っている。預かり金については来訪時に出納帳、領収書の提示や詳細説明を行い、確認とサインを頂いている。ほんの些細なことでもしっかり報告、連絡、相談を図ることで入居者のこれまでの生活習慣が確認できたり、家族の要望が聞けたりと良好な関係作りができています。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情、相談窓口である管理者、ユニットリーダーは家族が気兼ねなく意見、不満、苦情を言えるような良好な関係作りに努めている。また、契約時には重要事項説明書により行政窓口の説明をしている。都度の報告で今までに苦情はないが、発生の折にはマニュアルに基づき運営者、ホーム管理者内で審議の上迅速な対応、報告書の作成、職員への周知で再発防止に努める体制がある。家族会はないが、今後行事の際にあわせて交流会を開催することを検討している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職は入居者には伝えないが、聞かれた時はダメージを防ぐために正直に伝える。運営者は少しでも働きやすく風通しのよい職場作りを目指し、職員とコミュニケーションを平日頃から図るようにしている。入居者が馴染みの管理者や職員による支援が受けられ、異動や離職を最小限に抑えるためには、「批判ではなく意見が言える職場作り」と考え、最優先に行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時には1カ月以内に、特に開設前には法人施設やホーム2階で介護技術、知識に関する新人研修を2回、計6日間行なった。OJTも随時行ない、外部研修にも積極的に参加し研修報告書の作成とともに、研修報告を兼ねてカンファレンス時に発表する機会を設けている。今後も多方面からの講習、講演の機会を見つけて参加の奨励を図るとともに、ホーム内でのミニ勉強会の開催も行いながらスキルアップを図りたいと考えている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>春日井市居宅介護事業所連絡会の会員になり、月1回の連絡会に参加し他の介護サービス事業者と交流する機会をもっている。他の施設の勉強会に参加することでサービスの質の向上へのきっかけとしている。4月より愛知県グループホーム協議会にも加入している。また春日井市内で同時期に開設した3つのグループホームとは、訪問や電話により定期的な情報交換を行なっている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居相談の後、ホーム見学、申し込み、本人の生活の場で事前面談を行なう。家族にはセンター方式家族版を記入してもらい、情報の確保、信頼関係の構築に役立てている。3泊4日程度のお試し入居で徐々にホームでの生活に慣れていけるよう配慮している。同時に職員間で各種の記録や情報を共有することで本人の理解に努め、職員、ユニットリーダー、夜勤者の参加のもと判定会議で可否を判断している。また、生活が落ち着くまでは、事前に家族に適宜協力(来訪、相談、電話など)を依頼している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>対等な立場からの自立支援を基本としており、過剰に介護せずできないことへの援助を行なっている。職員は人生の先輩として料理、風習、ならわしなど分からないことを入居者より教えてもらったり、疲れている時に優しい言葉やねぎらいの言葉をかけてもらうことも多く、自然体で支えあっている。今後昔なつかしい道具をとり入れて「回想法」も実施したいと考えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>いつも入居者本人の思いを大切にして支援している。家族に生活歴や得意だったこと、逆に苦手だったことなどを伺い、それを生かせるよう入居者の視点に立った対応を心がけている。把握が困難な場合は一つひとつの言動に関心を寄せ、意味を掘り下げて思いを知るようにしている。職員に担当制を導入し、職員間で情報共有に向けた記録の方法を検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時、入居者の身体状況、今までの生活歴、本人や家族の意向を把握検討し暫定的に介護計画を作成し、計画に基づいてケアしている。入居3カ月後、毎日の生活から様子を把握し、ケアカンファレンスにおいて入居者一人ひとりの状況を全職員が検討して計画を見直し、把握し、共有して介護計画に反映させている。また、今後、1人の職員が入居者の状況を担当して観察、把握し、会議で提議、検討し、介護計画に反映させる方向も模索している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の生活から様子を把握し、随時話し合っている。問題が発生した時は月1回のケアカンファレンスにおいて議題として提議し、管理者、計画作成担当者、全職員が検討して計画の見直しにつなげ、介護計画に反映させている。開設時の10月には暫定的にプランをたて、入居3カ月後の1月には6カ月のプランを立てている。夏にはまた見直す予定である。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の要望に添い、通院介助や外出、外食、外泊など柔軟に対応している。ホームを近所のお年よりの語りあいやふれあいの場にもしようと地域へ働きかけていく意欲がある。また、入居者の居室に家族が宿泊できるような支援も検討している。</p>		<p>ホームを近所のお年よりの語りあいやふれあいの場にしよう地域へ働きかけていく取り組みや、また、入居者の居室に家族が宿泊できるような支援に期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力医療機関があり、本人、家族の同意のもと、かかりつけ医として受診を支援している。特に家族の希望がある場合や専門的診断が必要な疾病を有している場合は協力医療機関以外の受診も対応している。受診結果や服薬などの情報はファイルして入居者の健康管理に努めている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者に対する重度化、終末期については、身体状況、疾病の種別、また、連携をとる医師の対応状況により異なることから、早くからケアについて家族、医療機関、職員間で病状の説明や話し合いを重ねることで対応方法を考え、最善を尽くしたいと考えている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーや個人情報の保護、守秘義務について、運営規定にも明記されている。職員は入社時に研修し、宣誓書も提出している。個人の尊厳を守り、礼儀を忘れない心遣いや言葉かけ、特に排泄入浴時にプライバシーに配慮するなどしている。個人記録の記入や保管も場所を決めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者が主人公となって暮らせるよう「何かしたい」「どこかへ行きたい」との希望に添うため職員は掃除や食事時間の変更、見直しを柔軟に行っている。入居者の意思を尊重し、散歩や買い物にマンツーマンで出かけた、フロアで出かけるなどその日の希望で対応をかえている。入居者個々の日課表を作成し、1日の暮らし方を把握した上でサービスを提供している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は管理栄養士が1,500kcalを基本として作成し、職員(2カ月に1回検便実施)が調理している。食材は週に1回発注、搬入は週に2回業者が搬入している。入居者は味付けや準備、盛り付け、片付けなどを職員と一緒にしている。週に1度、自由メニューの折には食べたいものを買物から楽しみ、調理し、また、ひな祭りや節分の恵方巻きなど季節を感じる食事や食材にも配慮して楽しい食事となっている。職員も一緒に楽しみながら食べている。(職員は食費負担あり)</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>午前、午後と入居者の希望に合わせて入浴しており、入浴剤で今日は「森林の湯」あるいは「～の湯」などと温泉の気分を味わい、入浴を楽しむ工夫がされている。また、入浴の際には、安全のため職員がさりげなく見守りをしている。入浴を嫌がる人に対しては足浴や清拭、同性介助や気の合う職員など入居者の気持ちを配慮して対応している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は入居者が行ないたいこと、できることを入居時に確認し、日常生活やカンファレンスなどで把握している。貼り絵や折り紙作品作り、散歩や買物、外出、外食等、楽しみを支援し、また、手作りカレンダーの差し替え、ゴミ集め、ゴミ出し、洗濯物干しやたたみ、はき掃除、テーブル拭きなどの役割を毎日のリズムの中で行うことで活力を引き出す取り組みになっている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ホーム前の緑茂る細木公園へのほぼ毎日の散歩や買物、なばなの里や徳川園への外出、外食など、ホームに閉じこもらない生活が体調や季節を考慮して支援されている。日帰り旅行の計画もある。</p>		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関には人感センサーが設置され、夜間や職員が少ない時を除き基本的に鍵はかけておらず、出入り自由である。共用部入り口扉には鈴をつけ、外出希望の強い入居者に対応している。洗剤や薬品などの保管庫には安全を考慮して鍵をかけて管理している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報、消火、避難訓練は消防署の指導のもと年2回実施している。緊急連絡網やマニュアルも整備されている。消火設備は消火器、火災報知器、熱、煙感知器、スプリンクラーが設置されており、6カ月毎に配線も含め点検している。今後地域の協力を得られるように、町内会や民生委員を通じ地域の方に避難訓練や消火訓練への参加を積極的に呼びかけていきたいと考えている。懐中電灯や水3日程の備蓄もされている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が1,500kcalを基本として栄養バランスを考慮して作成している。便秘になりやすい老人の特性も考慮して生野菜を多くしたり、ヨーグルトを取り入れたりしている。糖尿や腎臓疾患のある人は医師の指示によりカロリーや水分を考慮している。水分摂取は食事の他、1,000cc～1,500cc摂取を目安として、時間毎にこまめに摂取しチェックしている。また、服薬時は薬の喉つかえを防ぐため、多めの水で飲むのを確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には理念と共に、地域の方の達筆な書の掛け軸や町内組長の千羽鶴も飾られており、地域との良好な関係がうかがえる。廊下やフロアには職員が入居者と一緒に作った季節感あふれる、ちぎり絵や折り紙の素晴らしい作品が整然と飾られており、1つの絵を見るようで感動的である。手づくりの日めくりカレンダーもあり、入居者の役割になっている。玄関には花壇やプランターに季節の花が咲いており楽しめる。フロアにはゆったりとしたソファが置かれ広い台所があって、家庭的な雰囲気を作り出している。食卓椅子の脚カバーにはテニスボールを利用し安全と防音への配慮がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、エアコンとベッドの他、押し入れ兼クローゼットが常設されている。使い慣れたタンスや小物入れ、テレビなどが配置され、壁には家族の写真などが飾られて家庭的な雰囲気作りがされている。入り口には入居者が分かりやすいように写真と大きな名札がかけられており、母の日のカーネーションも飾られ、間違えないような工夫がされている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。